

大井実の  
BOOKな話

福岡市内で書店『ブックス  
キューブリック』をいとなむ  
大井実さんの、本のある日  
常をつれづれに。  
撮影／川上信也

仕事に対する真摯な向き合い方を  
教えてくれる、大切な本があります。



『自分の仕事をつくる』  
西村佳哲／筑摩書房/  
798円(税込)



「5月病」という言葉があるように、この時期は仕事に意欲がわかない、という方も多いのではないのでしょうか？  
そんな時、僕が迷わずおすすめする本があります。働き方研究家、西村佳哲さんの『自分の仕事をつくる』です。内容は、著者が「いい仕事とはなにか」「いい仕事をするためにはなにかが大切なのか」というテーマをかかえ、各界で活躍する著名人を訪ねて仕事についての話を聞くインタビュー集。といっても決して専門的な分野の話ではありません。すべての人の心に普遍的に響く彼らの仕事との向き合い方に、僕自身何度はつとさせられたことか…。  
時間優先で効率化がすすんでしまった結果、最近はいねいな仕事が極端に減ってしまいました。「この程度でいい」と思っただけで簡単に作られた器は、使う側にもそれなりのものしか与えないけれども、余すところなく手間をかけて作られた器ならば、使い手を知らず

『フォレスト・ガンブ 一期一会』  
'94年アメリカ/142分/  
DVD 1,500円(税込) / パ  
ラマウント映画



知らずのうち幸福にしてくれます。もちろん、ていねいな手仕事にはたくさんの方が必要で、一流の仕事をしている人は、そこを惜しまないということが、(大まかに言う)この本を読んでいるととてもよくわかるんです。  
若者がよく「この仕事は自分に向いてない」といいますが、それを言うのはもう少し経験を積んでからでいい。まず目の前に与えられたものを一生懸命やってみる。そこからきつと面白いものが発見できるよと僕はこの本を差し出した。モノづくりと同じ、仕事が目白くなるにも時間が必要なんです。  
そして僕はそんな若者に映画『フォレスト・ガンブ 一期一会』をすすめます。主人公は目の前にあるものを素直に受け入れ、時間をかけてこなし、最後に大きなハッピーを手に入れる。一期一会の精神で現在を真剣に生きることが、結果的には幸せにつながる近道であることを知ってほしいと思います。